

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)			
		9/12～9/19	9/19～9/26	9/26～10/3	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.032	0.016	0.018
		セシウム137	0.330	0.190	0.230
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	0.017	不検出	不検出
		セシウム137	0.160	0.080	0.100
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.074	0.041	0.044
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	0.033	0.023	0.024
		セシウム137	0.38	0.250	0.290
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.089	0.060	0.054
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.066	0.077	0.064
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.085	0.051	0.079
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出	0.013
		セシウム137	0.110	0.069	0.068

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)			
		9/12～9/19	9/19～9/26	9/26～10/3	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.057	0.045	0.028
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出	不検出
		セシウム137	0.047	0.027	0.030

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授

(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第94回目(平成30年9月12日～平成30年10月3日)
平成30年9月12～10月3日の間、南相馬市の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム137で平均0.11 mBq/m³と低い値でした。この1年間以上、同じように低い値が続いております。